

# 「伊賀市の賑わい創出グランドデザイン（案）」パブリックコメント

## 意見集約結果

平成28年2月5日（金）から3月4日（金）まで実施したパブリックコメントに寄せられたご意見は以下のとおりでした。これらに対する協議会としての回答や、考え方については後日伊賀市ホームページに公開します。

### 【意見提出件数】

24人

### 【語句の整理】

52件

### 【意見提出方法】

持 参… 16件

郵 送… 13件

F A X… 6件

メール… 17件

- ・本案 「伊賀市の賑わい創出グランドデザイン（案）」の略
- ・協議会 「伊賀市の賑わい創出検討協議会」の略
- ・新図書館 「導入すべき機能として検討した新たな図書館」の意
- ・新記念館 「導入すべき機能として検討した新たな芭蕉翁記念館」の意
- ・現図書館 「伊賀市上野図書館」の略
- ・桃青中跡 「桃青中学校校舎跡地」の略
- ・民俗資料館 「上野歴史民俗資料館」の略

いただいた意見を要旨にそって再分類しています。

平成28年3月 伊賀市の賑わい創出検討協議会

分類	意見・提案
南 庁 舎 地	使用イメージとしては新図書館の充実を大前提とし、観光と市民生活どちらもが活かせる文化施設を希望する。
	南庁舎地はにぎわい創出の中心地であり拠点、その中で南庁舎はシンボルである。図書館は独立させて、図書館の機能をしっかりと保持させるべきで、駐車場 240 台は多すぎるので、周辺の駐車場をうまく使い、空いた敷地に新記念館を建設すればよい。
	図書館の役割が、本を借りる、調べものをするだけの時代は終わった。他市の新しい図書館は、平日にもかかわらず子どもがたくさん来ており、ラウンジで読書したり、パソコンで調べ物をしていた。また、コンビニエンスストアも入ったりもしている。「図書館」は「本を媒介にした知的コミュニケーションの場」と呼ぶべきで、こう考えると市民、観光客という区別もなくなるのではないか。
	図書館は将来ある子どもたちメインで考えてほしい。デザインありきではなく、実際に使う子どもたちをイメージして図書館を考えるべきで、自販機でもいいので飲み物が飲め、少し遅い時間でも利用できること、勉強できる十分なスペースをつくり、高校生が中学生に、中学生が小学生に勉強を教えることができる仕組みづくりなどソフト面も考えてほしい。
	①伊賀市の財政状況、②既存活用は最もエコ、③駐車場は平日と休日で住み分けが可能で、丁寧な案内を行うことで対応可、④南庁舎地と現図書館地は十分歩ける距離。 以上の理由から 2 - い案が最も良い。
	①コンクリートはメンテナンスにより今後も使用可能、②南庁舎は現代の建築修理技術によって蘇る（実例：N T Tビル）、③現庁舎を試験的に高圧洗浄した結果、苔や汚れが落ちた、④耐震や防水、外壁部分はすでに標準仕様が確立され、さらに進化した工法があるため補強や改修の技術的課題は解決できる。以上の理由から 2 - い案が最も良い。
	賑わい創出のためには観光振興の重要性は高く、市民が憩える場所も大切となり、2つの合体のコンセプトでの事業展開を望むが、提案内容では 1、2 階を新図書館が占め、上階に観光施設が入っている。1 階には観光客のために伊賀の魅力を発信する施設を用意することが大切で、1 階に何を配置するかで天と地の差が生まれる。
	主案（P.17）に賛成するが、1 階に新図書館があることはどうかと思う。図書館で観光客を呼び込むわけではなく、無料施設なので違和感がある。
	賑わい創出は、市街地に活力を呼び戻そうということであろうが、市街地の活気が損なわれているのは全国的なものである。そんな中で観光施設を整備したところでどれほど賑わいを取り戻せるのか、仮に取り戻せたとしても一時的なものとなる。また、図書館は本来賑わいを創出する施設ではないため、伊賀の歴史や文化を系統的にまとめ、伝えるために南庁舎地は博物館と図書館を併設した施設として活用すべきと考える。

分類	意見・提案
南 庁 舎 地	南庁舎地は観光客の入込み客数、地域の観光収入に大きく影響があると考えられるため、観光センターと新記念館が適している。
	駐車場の問題があり、現図書館を集客施設として利用することは不可能なので、南庁舎地に新図書館と新記念館を併設し、同敷地内に観光施設を建設する方法を提案する。
	同一敷地に施設を建設することで、重複する機能の床面積を削減することができ、補完しあえる。
	複合施設とするなら、新記念館も含めるべき。
	新図書館と観光施設とした場合、土日祝の駐車場問題があり、観光施設は賛成するが、図書館ではなく市役所のような平日型の公共施設（高齢者と子どもの交流施設、健康関連施設等）が望ましいと考える。
	芭蕉は世界に誇る伊賀市の顔であり、芭蕉の生誕地、俳諧文学のメッカ、を世界にアピールしてこそ財政難に苦しんでいる伊賀市が取るべき道であり、それを前面に出すことで賑わい創出になる。
	既存施設の活用を図ると、機能の移転に時間と経費がかかることになる。新図書館を現地で改修し、新記念館を南庁舎に移転することで、それらを縮減することが可能で、収蔵庫等として現在の記念館との一体感や上野公園などとの位置関係もよいと考える。
	新施設として多数の観光客、来街者、市民を集める施設が必要。新記念館と美術館、レストラン・カフェ・伊賀焼物販などが望ましい。 新記念館は、映像等も駆使して老若男女、幅広く誰にも分かりやすい説明展示とし、ここだけでも25万人～30万人を集める施設とする。また、美術館は新記念館以外に郷土が生んだ作家らの作品展示や市民の作品展など。
	図書館には経済効果は期待できない。強行するならその経済効果をしっかりと調査し、報告する必要がある。
	※住民説明会で回答した駐車場活用手法について 観光客に長く滞在してもらうために長時間の駐車を無料にするというアイデアは素晴らしい。 無料化による駐車場収入は、市役所新庁舎の職員駐車を有料にすることでまかなえばよい。
	桃青中学校跡地は駐車場にすることを提案する。 城北駐車場よりアクセスがよく、隣接幼稚園との共用化も可能で、水道タンクを移設したとしても十分な面積が確保できる。
	駐車場不足は桃青中跡を利用することで対応できる。
	南庁舎地の駐車場には大型バスの出入口も確保すべき。
新図書館と観光施設では駐車場利用の区分けができるのかが疑問。	

分類	意見・提案
南 庁 舎 地	<p>新築案（1－あ案、1－い案）は、以前の北庁舎（4, 900㎡）より大きく、敷地の北側は高くなっていることから、公園方面の眺望を損ねる。また、提案の駐車場配置案には高低差が考慮されていない。</p>
	<p>有名建築家による設計とはいえ、現庁舎は城下町の景観に即しているとは思えない。地場産資材を多用した純木造の建物として欲しい。</p>
	<p>南庁舎改築案の工程について、図書館の機能移転の可能性が示されているが、設計期間の短縮や工程の工夫（外部工事は内部を使いながら可能）を行い、図書館の機能移転の必要がないように工夫すべき。</p>
分類	意見・提案
南 庁 舎 （ 建 物 ）	<p>南庁舎は、築約50年の建物で、雨漏りが激しいため鉄筋が錆びて、コンクリートと分離していると思われる。非常に危険な施設であると思うので、再利用は不可。</p>
	<p>藤堂高虎公つながりの今治市では、丹下建築を保全している。時期的には坂倉建築と前後しているが、きれいにメンテナンスされている。伊賀市もまちの文化を大切に、今治のように南庁舎や西小学校体育館などをライトアップしてみてもどうか。</p>
	<p>市長は南庁舎を残すことを公約に当選したので、南庁舎を取り壊すという答申は民意を無視した越権行為ではないか。今回の答申では南庁舎地に置く施設の種類のみを答申し、南庁舎については市長に判断を任せるべき。南庁舎の取り壊しにこだわる人の考えが理解できないし、市長も南庁舎をリフォームすると説明しているならリフォーム後のCGなどを示してはどうか。</p>
	<p>市長の公約や住民投票の結果を考えれば、南庁舎は保存活用すべきではないか。保存価値があるのなら、坂倉記念館にするとか、建築案内ツアーなど、もっとアピールすべきで、早く方向性を決めて全員で同じ方向を目指すべき。</p>
	<p>南庁舎について、まだ使えるものを壊すのは勿体ない。しかも文化的に価値のあるものなら尚更壊さないでいただきたい。価値のあるものを守ることによって、歴史の街である伊賀市の文化レベルの高さを内外にアピールできるのではないかと。また、環境への負荷（温室効果ガスの排出）という観点から、建て替えより保存改修のほうが使用資材も少なく、廃棄物も少なく済む。建て替えは時代の流れに逆行する。</p>
	<p>伊賀市は「ムダのない財政再建」に取り組んでいる。価値あるものは利活用する点を協議会ではどのように話し合われたのか。現庁舎、現図書館ともに解体・除却する案には反対する。</p>
	<p>市長が南庁舎を残すという方向性を示しているのに、残す、残さないのアンケートを取り、それを反映させたランドデザインを作ることに納得できない。残すことを前提に協議することが当然ではないか。</p>

分類	意見・提案
南庁舎 (建物)	南庁舎について、議会は取り壊すとの結論であり、住民自治協議会及び協議会の調査結果を尊重すべき。
	南庁舎に関する耐震等の工事に約15億円を投じたところで、雨漏り対策等が40年～50年保障されるかが不明であること、南庁舎のデザインは役所用であり、古色蒼然、斬新性に欠け、集客施設としてふさわしくないこと、土地利用率が極めて悪いこと、新たな機能を入れるとした場合、配置に制限がかかること、本来は施設機能を考え、それにふさわしい意匠・設計を行うべきであることなどから、南庁舎は取り壊し、新施設を建設すべきである。
	伊賀には誇れるものがたくさんあり、それらを発信する拠点として南庁舎や上野市駅、北泉家住宅など歴史的情緒がある建物は保存活用すべきで、全国的に有名な人物や伝統産業などと併せてアピールすることで伊賀に興味を持つ人が増える。
	また、図書館は市民にとってなくてはならない施設であるので、気軽に利用でき、趣きある場所が必要。建て替えや駐車場では殺風景で魅力がないので、伊賀市の財産として南庁舎の保存を希望する。
分類	意見・提案
現図書館地	新記念館については駐車場問題を早急に解決し、道路拡幅や一方通行化など関係機関との連携が必要。
	現図書館地に新記念館を整備する場合、2-い案(P.30)を支持し、最低限現図書館の北側に建物を増築し、必要な床面積を確保する必要がある。また、駐車場へのアクセスのため、三重銀行前の一方通行規制は解除する必要がある。
	現図書館は耐震性があるので、菅原神社駐車場を使えるなら駐車場にし、北側に書庫を増築してはどうか。
	現図書館地に新記念館を整備するなら北側に増築の必要がある。
	菅原神社駐車場を買収する場合、現図書館の北側に書庫を増築することで床面積が確保できるので、三重銀行前の道路だけでも一方通行規制を解除すれば駐車場へのアクセスが改善できる。南庁舎地は新記念館と新図書館の複合施設とすれば床面積も問題はない。
	現図書館を新記念館に改修する場合、車の出入りが問題となる。狭くて分かりにくい場所である上に、周辺に一方通行の道路もあるので、最低限三重銀行前の道路だけでも一方通行の解除を行う必要がある。
	現図書館を新記念館に改修する案は、現図書館に耐震性があるという前提から出てきたもの。 取り壊すならこんな狭くて分かりにくい場所に新記念館を建てる意味がない。
	新記念館は、伊賀の誇りとして日本一立派な施設にしてもらいたい。芭蕉が生まれ育った伊賀は他所とは重要度が異なる。 現図書館地では新記念館に関する答申や、大垣市の奥の細道むすびの地記念館より狭く、場所も分かりにくい。

分類	意見・提案
現 図 書 館 地	芭蕉は世界に誇る伊賀市の顔。新記念館を観光バスも入りづらい場所に立地する意図が理解できない。現図書館で以前計画された耐震改修を復活実行し、不足分は東側民有地に計画すればよい。
	芭蕉は伊賀市が生んだ偉大な俳人である。俳句は文化であるがゆえに観光資源にはならないが、積極的に顕彰し、後世に功績を伝える努力が必要。伊賀に来たのに芭蕉を知らずに帰るのは残念。
	現図書館東側の菅原神社駐車場を急に使うようになったのはなぜか。買収金額も示されておらず、所有者である菅原神社の内諾を得ないまま計画を出すのは無責任ではないか。
	これまで当該駐車場は買収できない前提でそれぞれの検討を進めてきたので、それらが白紙になってしまうのではないか。
	伊賀の市街地には多くの歴史的建築物が残されており、これほど集積しているまちは無い。しかもまだまだ発掘整備すべき建物が残っており、これらを保全活用することはまち歩きに大いに貢献する。
	また、坂倉建築のような有名建築は残せば賑わいの仕掛けになり、うまく活用することで注目度も高まる。 以前にあった「城下町まるごと博物館」構想を実現すべき。
	第4回協議会で取られたアンケートは、粗雑な議事進行の中で進められたもの。基本情報を共有せずにとられたアンケート結果は無効とし、今後の明朗闊達な論議を期待する。
<p>図書館を利用して感じる問題点（下記）2点を解消するためA-1案（P.11）を支持する。</p> <p>①開架スペースが狭く全てを展示できていない。 →将来の蔵書数を考え、スペースに余裕のある消防跡地・城北駐車場に図書館を整備することがベストと考える。</p> <p>②駐車場が狭い →消防跡地・城北駐車場であれば十分な駐車台数が確保できる。車社会であるため徒歩でアクセスすることの優先順位は低いと考える。</p> <p>A-2案（P.12）は駐車場不足と道路狭隘、B-1案（P.13）は観光客と市民が混在、B-2案（P.14）は駐車場不足により反対する。</p>	

分類	意見・提案
その他施設・敷地	図書館は、もう少し大きい駐車場と資料館や美術館的な要素を加えれば良く、桃青中跡が適している。観光客が出入するより風光明媚で雑踏から離れた場所が良いし、駐車場も無料にできる。
	上野市駅前東側にぼくらの館、銀座中央駐車場に脳トレ科学館などがあがっているが、これらは上野商工会議所が民間として自由に整備すべきものであり、税金を使うような施設ではない。
	市役所移転後の上野支所は、上野図書館、ハイトピア、ふれあいプラザのいずれかに設置すればよい。
	現図書館は売却するか、上野支所として利用すればよい。
	旧北伊勢上野信用金庫（上野東町）が解体され、その後は公園になると聞いているが、歴史公園として藤堂高虎の銅像を設置し、資料展示などを行うことで賑わい創出に直結するのではないかと。
	桃青中跡に忍者関連施設を作ることで人を呼び、鎌倉で開催されている「カマコンバレー」等 I T 系のエンジニアを集めるイベントを実施するなどソフト面の検討をしてはどうか。台湾からのインバウンド人材もソフト面が楽しみで来ていると思う。
	図書館は現在地で改修してはどうか。
	新記念館は芭蕉翁生家や愛染院、上野天満宮、さまざま園など関連施設の隣接地に建設させ、回遊を促進すべき。
	南庁舎地に上野総合支所（100名体制）、中央公民館跡地と南庁舎正面駐車場に新図書館、北庁舎跡地に立体駐車場を新築してはどうか。
	上野城近くの駐車場と本町通り周辺の高低差を利用して、線路上を越える動く歩道を設置して中心市街地に多くの人を誘導してはどうか。
市駅前芭蕉翁像の横に芭蕉の俳句の電子掲示を作って欲しい。	
伊賀市の心臓となる場所に藤堂高虎騎馬銅像と東大手門と白鳳城の大型写真パネルを掲示して、伊賀に来た人に印象を強く持ってもらおうようにする。	
施設が北に集中しすぎている。南エリアに副拠点が必要。	

分類	意見・提案
その他	<p>4つの基本方針があるが、具体的な提案がなされていない。 また、市全体に対する賑わいや憩い、情報発信の拠点、まちなか周遊の拠点となる具体的な提案が示されていない。</p>
	<p>ハコモノを計画するのではなく、もっと本質に踏み込んだ賑わい創出とは何なのか、ということなのかをこれまでに行われなかった視点・手法で多角的に検討してほしい。ありきたりの検討では税金の無駄遣いになる。</p>
	<p>伊賀には観光資源がたくさんあり、それを生かすための努力は怠ってはならない。爆買の次代はかならず終焉する。その時勝ち残れるのは、人の真心が伝わるまちだと考える。</p>
	<p>市や上野商工会議所、伊賀市議会、住民自治協議会などの考え方を総合的にまとめ計画立案するため、専門業者に策定作業を委託してはどうか。策定された計画をもって国や県との折衝を願う。</p>
	<p>建物の意匠・デザイン・基礎設計案は全国から公募すべき。伊賀市も新しい試みを実施すべき。</p>
	<p>パブリックコメントについて、ホームページ、各施設での閲覧以外に貸出し用の資料を備えて欲しい。また、今回のように市民に対する説明、意見交換の場を設けて欲しい。</p>
	<p>商業機能として観光のお土産、食事しか見てとれない。伊賀市に相応しい商店街の形成、景観形成、市民のための商業活性化も盛り込むべき。</p>
	<p>賑わいの要素として、交通インフラの再構築も盛り込むべき。</p>
	<p>本案には、賑わい創出に関する内容が無視されてまとめてしまっているように思う。施設配置メインの案ではなく、機能配置の結果どのような賑わい創出ができるのかを書くべきで、イメージは削除して、効果の面をもっと検討してほしい。箱物ではなく内容でまとめてほしい。</p>
	<p>今後は施設の整備に加えて桃青中跡の活用や民俗資料館の充実など、事業の具体化に努め、各施設に対する期待に応じた学芸員等の人材育成にも尽力すべき。</p>
	<p>ゆめが丘の位置が間違っている。</p>
	<p>各案に対して、合併特例債を差し引いた実質の市の負担額が知りたい。 まず南庁舎地について十分検討すべきで、現図書館地の検討は、別途切り離すか時間を置いてはどうか。</p>
	<p>様々な機能を丸之内に集める計画のように見受けられるが、人口の減少に伴い、税収も下がり、市の運営費も下げていく必要があるため、遠方に住む人たちが城下町に引っ越してもらい、居住区を集中することで市の維持費を削減してはどうか。 市長は協議会立ち上げの際に「ゼロベースで、同等・平等に検討してほしい。」と言ったが、本案に対して「壊す、壊さないは諮問していない。いささか暴走気味であり勇み足」と記者会見で発言した。本末転倒であり、委員に対して謝罪すべき。</p>